



発行所  
一般財団法人滋賀県遺族会  
滋賀県大津市におの浜4丁目2-34  
滋賀県遺族会館  
電話 (077)522-7227  
FAX (077)522-7233  
発行責任者  
滋賀県遺族会長  
岸田 孝一

### 青年部結成大会

# 後継者育成へ組織化

## 青年部結成される

4月18日、滋賀県遺族会青年部結成大会が、アヤハレックサイドホテルで、青年部へ入会していた方を含め約100人が参加され、来賓として三日月大造滋賀県知事、増矢稔日本遺族会副会長、山本賢司滋賀県護国神社宮司をお招きし、盛大に開催されました。

角野彰夫滋賀県遺族会事務局長の司会で、国歌斉唱、黙禱、岸田孝一滋賀県遺族会長は挨拶で「戦後生まれが8割を越え、正しいことをしっかりと伝え、残していくことが大事」と述べられました。



岸田孝一滋賀県遺族会長のあいさつ

三日月知事からは「日頃、県内各地でいろいろな戦争体験を語り継ぐことや慰霊の活動などにご尽力、ご貢献をいただいていることに厚くお礼申し上げます。戦争が終結して70年目の節目の年に孫・ひ孫の皆様方を中心に、青年部を結成していただいたことは大変意義深いことだと思います。私も公務を調整しながら戦没者の慰霊追悼を皆さんと共に一緒にさせていただき、この経験をしっかりと県民の皆様方に、お伝えして参りたいと考えています。青年部の活動が充実したものに参りますように」とのご祝辞をいただきました。

お祝いのメッセージを赤堀義次滋賀県議会議長(当時)、滋賀県遺族会参与の有村治子参議院議員

(国務大臣)、日本遺族会顧問の水落敏栄参議院議員からいただき、披露の後、青年部結成大会開催趣旨と日程説明がありました。

続いて、國松善次滋賀県遺族会相談役が「遺族会青年部への期待、戦没者遺族の役割と今後の課題」の演題で講

演。「なぜ今、青年部を作らなければならぬか」から始まり「太平洋戦争と大東亜戦争、遺族会活動の歴史と課題、青年部の皆さんに期待すること等々」の熱弁に、青年部の方々も時間が過ぎるのも忘れて真剣に聴講されました。

次いで、ビデオで平成25年度に実施した「平和祈念滋賀県戦没者追悼式」等々、遺族会の主な事業の紹介の後、川嶋之生滋賀県遺族会副会長から遺族会の組織と事業概要の説明があり、その後、各郡市遺族会毎に入会青年部員と本日出席の郡市役員との顔合わせ話し合い等があり、郡市青年部の代表者を選出して散会となりました。

### 青年部意向調査と結果

## 182人が入会

滋賀県遺族会では、将来にわたり遺族会の活動を維持継続していくための後継者の育成と、21世紀に生きる次の若い世代の人たちに戦争の悲惨さと、平和の尊さや戦争の歴史に触れることで、より正しい歴史認識を養い、学ぶためにはどうすれば良いか等々に取り組む、検討を重ねてきました。

青年部の組織化に向けての今までの経過

- ◆昨年5月から6月にかけて「戦没者の孫・ひ孫の実態調査」の内容等の検討
- ◆8月末を期限に、遺児会員2499人を対象に回収した調査票は2052枚。孫・ひ孫の数は3353人
- ◆9月から11月末に名簿の整理
- ◆組織の位置づけ、規約等の検討
- ◆実態調査で報告いただいた孫・ひ孫の中で、とりあえず次の人(622人)を対象に青年部加入意向調査を実施
- ①県内に住んでいる
- ②平成9年以前に生まれた人(18歳以上)

平成27年5月末現在

### 孫・ひ孫(青年部)の意向調査と結果の概要

市町名	調査遺児数	孫・ひ孫(青年部)意向調査の状況						意向調査の結果							
		男女別			孫・ひ孫別			入会者		男女別		孫・ひ孫別			
		男	女	不明	孫	ひ孫	不明	人数	平均年齢	男	女	孫	平均年齢	ひ孫	平均年齢
大津市	12	19	8	11	15	4	5	46	4	1	5	46	0	-	
高島市	27	50	29	21	29	21	9	47	8	1	9	47	0	-	
草津市	8	15	6	9	11	4	3	38	2	1	2	55	1	21	
栗東市	20	31	17	14	28	3	6	41	3	3	5	46	1	17	
守山市	14	20	6	14	6	14	5	45	3	2	5	45	0	-	
野洲市	19	41	30	10	23	17	9	41	7	2	6	50	3	21	
湖南市	9	13	10	3	9	4	6	46	3	3	6	46	0	-	
甲賀市	30	39	27	12	32	4	32	48	28	4	32	49	0	-	
近江八幡市	46	86	37	49	59	27	25	39	15	10	18	46	7	20	
東近江市	44	77	44	33	63	14	17	43	10	7	14	47	3	21	
蒲生郡日野町	8	11	7	4	8	3	2	31	1	1	1	43	1	19	
蒲生郡竜王町	17	33	15	18	25	7	28	43	21	7	23	48	5	21	
愛知郡愛荘町	17	22	10	12	20	1	8	42	4	4	7	45	1	17	
彦根市	38	65	29	36	54	10	7	43	5	2	7	43	0	-	
長浜市	40	68	38	30	53	15	14	37	7	7	11	42	3	19	
米原市	15	22	14	8	15	7	6	33	5	1	4	39	2	20	
犬上郡多賀町	9	10	7	3	10	0	0	-	0	0	0	-	0	-	
犬上郡豊郷町	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	-	0	-	
犬上郡甲良町	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	-	0	-	
合計	373	622	334	287	460	155	7	182	42.8	126	56	46.7	27	20.2	



大津市遺族連合会青年部員の辻正人さんを囲んで初顔合わせ

③過去に遺族会の事業に参加した人  
その結果、平成27年1月末までに162人の入会申込者がありました。青年部結成大会の開催は、年度始めでもあり、また年齢的にもそれぞれの立場とか職場の中でも中心となつて活躍されている世代の現状を考えますと、「直ちに組織化を図り後継者をつくること」は大変難しいことです。この記念すべき青年部結成大会の趣旨をご理解の上、参加下さいました青年部の方々に礼申し上げます。  
この結成大会の記念にと植樹を計画しております。樹が大きく育つように、青年部もしっかりと根を張り、枝を広げて成長するよう青年部の方々のお知恵をいただき、お力添えをよろしくお願いたします。  
(次世代組織化特別委員会 幹事長 恵美子)

天皇皇后両陛下お出迎え事業

両陛下と共に祈りを捧げ

これまでに、パラオは3回訪れました。1回目は、昭和61年一ヶ月間パラオ諸島遺骨収集団の一員として参加しまし

2回目は、平成20年パラオ諸島慰霊友好親善事業の参加で退職後始めたガラス工房を彦根駅東区画整理のため閉じ

そんな中で、天皇皇后両陛下がパラオに慰霊訪問をしてくださることを知りま

4月6日前泊。7日早朝、成田空港で結団式後出発の予定がフライトチェンジにより夜になり、8日未明パラオ着。同



ベリリュウ島で慰霊祭に参加の皆さん

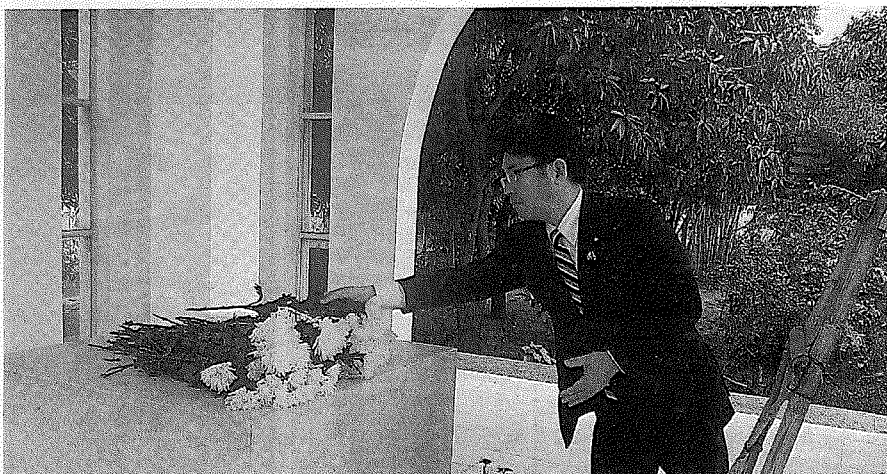
9日、ボートでベリリュウ島へ。島に着いて先ず休憩した民宿マユミは、30年前の遺骨収集の宿で懐かしく思いました。

下と一緒に慰霊できたことに最高の喜びを感じました。両陛下をお見送りした後、遺族会団員で追悼式を行いベリリュウ島の務めは終わりました。

戦時中日本軍は、パラオ国民を全て別の島などに疎開させた戦争に巻き込まなかつたそうです。また、主要道路の舗装や島と島を結ぶ橋などが全額日本のお金で整

備されたそうです。このことを日本人として誇りに思い、今後も続けて行くべきだと思えます。

たちに語り継いでいかなければならないと思えます。そのためにも今後市民を代表する市長や議員も機会があればぜひ参加し、心からの感謝と平和への誓いを胸に刻んでいただくべきではないかと思えます。



防災分野でより一層の連携強化 ミャンマー訪問

衆議院議員 国土交通大臣 政務官 上野 賢一郎

2月9日から3日間、国土交通大臣政務官として、ミャンマーを訪問して参りました。ミャンマーは、サイクロンの通り道となるため、防災の強化が重要な課題になっていきます。

滋賀県遺族会主催の海外戦跡慰霊巡拝には毎年参加させていたのですが、特に今年には戦後70年の節目の年であり、高島市を代表する高島市議会議長(当時)の立場で、「異国の地に眠っておられる英霊に、今日の平和の礎を築いていただいたお礼を申し

上げた」との思いを持って、1月のパラオ諸島戦跡慰霊巡拝と国際友好親善の旅に参加させていただきました。

まず、心から感謝申し上げます。現地では、在パラオ日本国特命大使田尻和宏様をお招きしての合同慰霊式典をはじめ、野戦病院跡、海軍墓地慰霊碑、敵軍が上陸したとされるオレンジビーチ、戦闘機や戦艦が沈み、多くの方が海底に眠る洋上、全5ヶ所

慰霊祭が行われ、心から冥福をお祈り申し上げました。それぞれの慰霊祭で、遺族の方々からこの地で眠っておられるご家族に対し呼びかけがされ、私は胸が締め付けられるような気持ちになりました。みなさん心から話しかけられていました。「やっ与会いにこれだよ。おかげさまでみんな元気にしてゆつくり休んでください。・・・」私はこの呼びかけ

夜来の強い雨が、平年より5日早く満開となった境内の桜を濡らす。4月5日、滋賀県護国神社で恒例の春季例大祭が、県内遺族会員や関係者約600人が雨を避けてテント内で待つ中、午前10時、神社本庁献幣使として、米原市山津照神社、細野欽也宮司のご参向で厳かに齊行された。

また、「ひるがえってわが国の現況は、先の大戦への思いも希薄になり、神札の送付に対しても神社へ寂しい連絡が伝えられるなど、英霊顕彰の方法も今後再検討する必要性を感じる昨今です。そこで、英霊の御影を護国神社に掲揚し、顕彰する構想がある」と述べられ、午前11時30分、参列者一同大拍手のもと春季例大祭の諸事を終了した。

(広報 原 幸男)

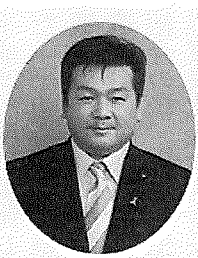


参拝者に挨拶する山本賢司宮司

パラオ共和国 戦跡慰霊巡拝

日本の援助で主要交通網を整備

高島市議会議員 澤本 長俊



滋賀県遺族会主催の海外戦跡慰霊巡拝には毎年参加させていたのですが、特に今年には戦後70年の節目の年であり、高島市を代表する高島市議会議長(当時)の立場で、「異国の地に眠っておられる英霊に、今日の平和の礎を築いていただいたお礼を申し

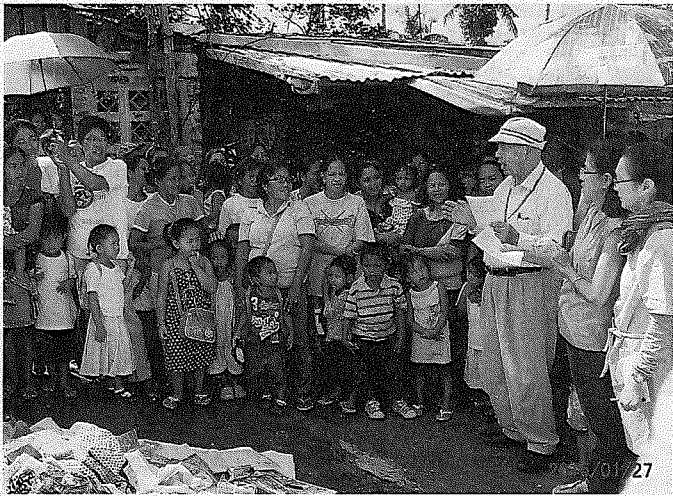
岸田孝一滋賀県遺族会長の祭文奏上に続き、多賀大社巫女による「浦安の舞」の奉奏が行われ、来賓として出席の二之湯武史参議院議員をはじめ、上野賢一郎(代理)武藤貴也(代理)武村展英(代理)各衆議院議員の玉串拝礼が続いた。

また、「ひるがえってわが国の現況は、先の大戦への思いも希薄になり、神札の送付に対しても神社へ寂しい連絡が伝えられるなど、英霊顕彰の方法も今後再検討する必要性を感じる昨今です。そこで、英霊の御影を護国神社に掲揚し、顕彰する構想がある」と述べられ、午前11時30分、参列者一同大拍手のもと春季例大祭の諸事を終了した。

滋賀県遺族会戦跡慰霊巡拝

ロシア・シベリア沿岸地方、比島、パラオへ

災害の爪痕残る  
レイテ島民のバイタリティー



レイテ島で現地の幼稚園児と交流する藤澤喜八郎団長

平成26年度の戦跡慰霊巡拝は、7月下旬のロシア・シベリア沿岸地方、1月下旬のパラオ共和国、そして1月下旬にフィリピン共和国を訪れました。

前回の平成25年11月に巡った時は台風30号襲来直前にレイテ島を離れられ、巡拝団全員が無事に帰国することが出来ました。英霊のご加護に感謝申し上げます。

この度は、英霊の皆様よりご加護をいただいたお礼の戦跡慰霊巡拝と、レイテ島で被災された皆様へのお見舞いを含めての訪問でした。

風速90mの暴風雨と5m超の高波の爪痕はいたる所に残り、復興の遅れを感じました。しかし、街並みや行きかう人々には悲愴さが見られず、飛び散ったトタンや木材等を掻き集めて直した住まいを自にする、逆バイタリティーさえ感じました。

今年も英霊顕彰委員会は海外戦跡慰霊巡拝に取り組み、一人でも多くのご遺族の皆様を英霊の召されている近くまで案内させていただきます。多数のご参加をお願いします。

今年も英霊顕彰委員会は海外戦跡慰霊巡拝に取り組み、一人でも多くのご遺族の皆様を英霊の召されている近くまで案内させていただきます。多数のご参加をお願いします。

今年も英霊顕彰委員会は海外戦跡慰霊巡拝に取り組み、一人でも多くのご遺族の皆様を英霊の召されている近くまで案内させていただきます。多数のご参加をお願いします。

今年も英霊顕彰委員会は海外戦跡慰霊巡拝に取り組み、一人でも多くのご遺族の皆様を英霊の召されている近くまで案内させていただきます。多数のご参加をお願いします。

今年も英霊顕彰委員会は海外戦跡慰霊巡拝に取り組み、一人でも多くのご遺族の皆様を英霊の召されている近くまで案内させていただきます。多数のご参加をお願いします。

今年も英霊顕彰委員会は海外戦跡慰霊巡拝に取り組み、一人でも多くのご遺族の皆様を英霊の召されている近くまで案内させていただきます。多数のご参加をお願いします。

今年も英霊顕彰委員会は海外戦跡慰霊巡拝に取り組み、一人でも多くのご遺族の皆様を英霊の召されている近くまで案内させていただきます。多数のご参加をお願いします。

今年も英霊顕彰委員会は海外戦跡慰霊巡拝に取り組み、一人でも多くのご遺族の皆様を英霊の召されている近くまで案内させていただきます。多数のご参加をお願いします。

今年も英霊顕彰委員会は海外戦跡慰霊巡拝に取り組み、一人でも多くのご遺族の皆様を英霊の召されている近くまで案内させていただきます。多数のご参加をお願いします。

今年も英霊顕彰委員会は海外戦跡慰霊巡拝に取り組み、一人でも多くのご遺族の皆様を英霊の召されている近くまで案内させていただきます。多数のご参加をお願いします。

今年も英霊顕彰委員会は海外戦跡慰霊巡拝に取り組み、一人でも多くのご遺族の皆様を英霊の召されている近くまで案内させていただきます。多数のご参加をお願いします。

今年も英霊顕彰委員会は海外戦跡慰霊巡拝に取り組み、一人でも多くのご遺族の皆様を英霊の召されている近くまで案内させていただきます。多数のご参加をお願いします。

今年も英霊顕彰委員会は海外戦跡慰霊巡拝に取り組み、一人でも多くのご遺族の皆様を英霊の召されている近くまで案内させていただきます。多数のご参加をお願いします。



懐かしい蒸気機関車(大井川鉄道) 家山駅と客車内 第1班参加の皆さん

「一年一度は靖國へ」を合言葉に、今年も滋賀県遺族会主要事業の一つとして靖國神社昇殿参拝が二班に分かれ、3月15日から17日にかけて行われました。

今年も英霊顕彰委員会は海外戦跡慰霊巡拝に取り組み、一人でも多くのご遺族の皆様を英霊の召されている近くまで案内させていただきます。多数のご参加をお願いします。

今年も英霊顕彰委員会は海外戦跡慰霊巡拝に取り組み、一人でも多くのご遺族の皆様を英霊の召されている近くまで案内させていただきます。多数のご参加をお願いします。

大好評の親睦会  
意気投合 親密度アップ

第41回記念靖國神社昇殿参拝・戦後70年の節目に祭祀委員靖國担当として、「年に一度は靖國へ」と厳かに我が父・我が肉親への再会にお参りすることが出来たこと大変うれしく思います。

今年も英霊顕彰委員会は海外戦跡慰霊巡拝に取り組み、一人でも多くのご遺族の皆様を英霊の召されている近くまで案内させていただきます。多数のご参加をお願いします。

今年も英霊顕彰委員会は海外戦跡慰霊巡拝に取り組み、一人でも多くのご遺族の皆様を英霊の召されている近くまで案内させていただきます。多数のご参加をお願いします。

今年も英霊顕彰委員会は海外戦跡慰霊巡拝に取り組み、一人でも多くのご遺族の皆様を英霊の召されている近くまで案内させていただきます。多数のご参加をお願いします。

今年も英霊顕彰委員会は海外戦跡慰霊巡拝に取り組み、一人でも多くのご遺族の皆様を英霊の召されている近くまで案内させていただきます。多数のご参加をお願いします。

靖國神社昇殿参拝  
1班：3月15日～16日  
2班：3月16日～17日



大盛況の宴会(ホテルアンピア松風閣)

今年も英霊顕彰委員会は海外戦跡慰霊巡拝に取り組み、一人でも多くのご遺族の皆様を英霊の召されている近くまで案内させていただきます。多数のご参加をお願いします。

今年も英霊顕彰委員会は海外戦跡慰霊巡拝に取り組み、一人でも多くのご遺族の皆様を英霊の召されている近くまで案内させていただきます。多数のご参加をお願いします。

今年も英霊顕彰委員会は海外戦跡慰霊巡拝に取り組み、一人でも多くのご遺族の皆様を英霊の召されている近くまで案内させていただきます。多数のご参加をお願いします。

今年も英霊顕彰委員会は海外戦跡慰霊巡拝に取り組み、一人でも多くのご遺族の皆様を英霊の召されている近くまで案内させていただきます。多数のご参加をお願いします。

今年も英霊顕彰委員会は海外戦跡慰霊巡拝に取り組み、一人でも多くのご遺族の皆様を英霊の召されている近くまで案内させていただきます。多数のご参加をお願いします。

今年も英霊顕彰委員会は海外戦跡慰霊巡拝に取り組み、一人でも多くのご遺族の皆様を英霊の召されている近くまで案内させていただきます。多数のご参加をお願いします。

沖縄方面

第5回目を迎える沖縄方面次世代戦跡訪問研修は、3月25日から27日まで県内各地から応募のあった中学生24人の参加で実施しました。

伊丹空港で結団式後、那覇空港へ。バスに乗り換え最初の見学場所「ひめゆり平和祈念資料館」へ行きました。語り部の新崎昌子さんは、ひめゆり部隊での想像を絶する体験の中を生き抜いてこられた方で、ご高齢であり私たちへの講話を最後に引退されると聞き、貴重なお話しを聞かせていただけたことに感謝し、心から発せられる命の大切さ、戦争の悲惨さ、平和の尊さを鮮明に教えていただきました。

夜はホテルで、同行いただいた滋賀県平和祈念館の前川啓史さんの講話で平和学習のひと時を過ごしました。

2日目は「近江の塔」の前で慰霊祭を行いました。川嶋之生団長並びに参加者代表太田小雪さん(今津中学校)の追悼の言葉、全員の献花、童謡「ふるさと」の献歌で滋賀県出身の英霊を追悼いたしました。

午後は、「糸数アブラガマ」に入り、真っ暗闇の中懐中電灯が無ければ一歩も動けない恐怖を実感し、そんな中で負傷兵への医療行為や救命活動が行われたことを聞き、どんな気持ちで行動されていたのか想像もつかないことでした。その後、再現された南風原陸軍病院壕に入り、狭い壕の中で同じような体験をしました。

3日目は4000人の兵士が全滅したと言う海軍司令壕を見学。次に対馬丸記念館を見学しました。語り部の照屋恒さんは現在75歳で、4歳の時母親・姉と一緒に乗船して、恒さんのみ生き延びられたと言う悲惨な体験をされた方です。4歳の子どもの筏にしがみついて暗い海面を漂流している姿を想像すると、言葉もありません。

いずれの戦跡でも語り部の皆さんが異口同音に言われることは、命の大切さ・戦争の悲惨さ・平和の尊さでした。自然災害は防ぎようが無いが、戦争は人間が起すものであり、防げないはずが無いということでした。そしてこのことを沢山の人の発信できる人になってほしいと言ったことでした。参加された子どもたちが、この研修で知ったことを沢山の友達に話し伝えてくれることを期待し、有意義な研修旅行が全員事故なく終了できましたことに感謝申し上げます。

(次世代活動委員会 委員長 一井 久雄)

平和学習を学び 幸せに気づく

彦根市立東中学校2年生 正田 まこ都

私は今回、次世代戦跡訪問研修に参加させてもらい、初めて沖縄に行きました。沖縄に到着した1日目は「ひめゆり平和祈念資料館」で、語り部さんの貴重な体験談を聞き、病院壕のジオラマや40年後に発掘された医療器具が、生エピソードとともに展示されていました。語り部さんのお話は、一つ一つ正確に覚えておられて、やはり70年経った今でも、決して癒すことのできない心の傷なんだなあと感じ、深く胸に残りました。

2日目は、「近江の塔」で慰霊祭を行った後、沖縄戦に至るまでの沖縄の歴史や、戦争がなぜ起こったのかなどを展示されている「平和祈念資料館」に行きました。その写真は目をそむけたくならないようなものもあり、戦争の悲惨さを目の当たりに感じました。

午後は、「糸数アブラガマ」の見学と、「沖縄陸軍病院南風原壕」と「南風原文化センター」の見学をしました。ガマの中には、当時の遺物や爆風よけの石積み、狭い通路や多くの命を支えた貴重な井戸、カマドがありました。今は出入り口に階段が付いており、ガマの中は所々に手すりがあり、初めて歩いたので歩きやすかったのですが、当時は自然の洞窟がそのまま壕として使われていたのでとても足場の悪い中、ひめゆり学徒の方々は負傷兵の治療などを行っていた、さぞかし大変だっただろうなあと感じました。

次に、「沖縄陸軍病院南風原壕」と「南風原文化センター」に行きました。南風原壕では、天井が低く湿度が多いように感じました。南風原文化センターは、沖縄陸軍病院南風原壕の再現や壕の遺物などが展示されており、当時の様子がとても理解しやすかったです。最終日は、旧海軍司令部壕と対馬丸記念館に行きました。「旧海軍司令部壕」は、昭和19年日本海軍設営隊によって掘られた司令部壕で、当時は450mあったと言われている。かまぼこ型に掘り抜いた横穴をコンクリートと坑木で固め、米軍の艦砲射撃に耐え、持久戦を続けるための地下陣地で4000人余りの兵士が収容されていたそうです。

「対馬丸記念館」では、実際に対馬丸に乗っていた語り部さんのお話と、犠牲者の遺影、遺品などの展示を見学しました。実際に乗っていた方の話を聞くと、沢山の人が亡くなってどれだけ悲惨なことか思い知らされました。

今回の次世代戦跡訪問研修を通して、私たちが今、平和に暮らしているのは戦争で犠牲になった方、国のために大事な命をやむなく落とされた方々のお陰だと思えます。「毎日きちんと三度ご飯が食べられる、学校に行ける、家族と共に暮らせる」など、これまで当たり前だと思っていたものが、とても幸せなことなんだと実感しました。

平和学習を学ばなければ、きっとそれらの幸せに気付くことはなかったかも知れません。これからは、何事にも一生懸命取り組んでいきたいし、戦争を体験した人が少なくなってきた今、私たちが後世に伝えて行かなければならないという責任を感じています。こんな悲惨な戦争は二度と起こしてはいけな

戦争の記憶のバトンを受け取って

野洲市立野洲中学校1年生 永田 真輝

大東亜戦争と聞いて僕は、広島にアメリカが原爆を落としたことや、真珠湾攻撃のことしか想像できませんでした。でも、今回沖縄に行くと沖縄戦の事を知り、大東亜戦争の本当の怖さが分かりました。

沖縄で起きた日本唯一の地上戦、沖縄戦は昭和19年(1944年)6月にサイパンが陥落したことで始まるようになっていた。8月には沖縄から長崎に行く疎開船対馬丸が米軍の潜水艦に撃沈され、10月10日に米軍の空襲により、那覇市の90%が焼かれました。そして、昭和20年4月1日に米軍が沖縄に上陸し、住民や学徒を巻き込んだ3ヶ月に及ぶ沖縄戦が始まりました。この戦いで軍人、住民な

り前だと思っていました。が、とても幸せなことなんだと実感しました。平和学習を学ばなければ、きっとそれらの幸せに気付くことはなかったかも知れません。これからは、何事にも一生懸命取り組んでいきたいし、戦争を体験した人が少なくなってきた今、私たちが後世に伝えて行かなければならないという責任を感じています。こんな悲惨な戦争は二度と起こしてはいけな

はたしかに人間です。しかしこれ以上に戦争を起こさない努力ができるのも私たち人間ではないでしょうか。僕はこの言葉にとっても感動しました。罪を犯すのは人間、その罪を許さないのも人間。これは現在にも言える。僕は思います。僕はこの詩を忘れず、沢山の人間に伝えて行きたいです。

3日間の沖縄訪問で僕は、いろんなところから戦争の記憶というバトンをもらいました。僕たちがアンカーにならないために、このバトンを次の世代に渡し、戦争を語り継いでいきたいです。

最後に遺族会の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。そして、僕の班の男子のみんなは面白い話をしたり、ホテルではとても楽しかったです。班のみんなのお陰で楽しい沖縄訪問でした。本当にありがとうございます。

平和祈念資料館では、沖縄戦のことが更に詳しく分かりました。僕は資料館にあったある詩に目を奪われました。その詩の一部にこんな言葉があります。「戦争を起すの



平和祈念公園「近江の塔」追悼式に臨んだ次世代の皆さん

# 次世代

## 鹿児島方面

### 先人に感謝 この命を大切に

東近江市立五個荘中学校2年生 川島 陽奈

私は鹿児島にある沢山の資料館や建物を見て、戦争というものをより深く身近に感じることが出来ました。鹿児島に行く前は、授業でも戦争のこととは習っているし、京都への校外学習などを通して戦争のことはよく知っていたと思うていました。ですが、鹿児島で実際の戦記を見たり、沢山の方々の遺書を読んだり、話を聞いたりすると全然戦争のことを知らなかったことに気がきました。

特に私が印象に残っているのは、特攻隊の1036人の方の最期にそれぞれの思いが書かれたことに気がきました。

夜は勉強会があり、山川芳志郎副団長による「平和学習」心の勉強をしていただきました。

最終日、満開の桜トンネルを抜け、知覧特攻平和会館に向きました。元陸軍特攻隊員439人が知覧から飛び立った所です。資料館では時間を忘れるくらい子どもたちは見入っていました。また平和観音堂にて慰霊祭を行いました。岸田孝一団長および参加者代表樋口豊士さんの追悼の言葉、全員による献花・献歌「ふるさと」を捧げられました。

富屋食堂では特攻の母、鳥浜トメさんのお話しをお孫さん(語り部)が話して下さいました。この3日間、子どもたちは実りの多い研修になったと思います。

(次世代活動委員会 副委員長 和田 善一)

第14回を迎えた鹿児島方面の戦跡訪問は、3月28日(土)から30日(月)まで小学生32人、中学生8人の計40人の参加で行われました。

大阪南港からフェリーに乗船後サロンにて結団式を行いました。出航時は雨でしたが、翌朝心配された船酔いもなく皆元気に志布志港に下船しました。

最初の見学地は鹿屋航空基地史料館です。大東亜戦争末期、日本で最も多い908人の若き特攻隊員が飛び立った元海軍航空基地で、遺影や遺書・遺品などの展示された館内を見学しました。桜島港に向かう道中、海の中から見える美しい桜島を車メラに納めていました。桜島港からフェリーで鹿児島港に移動後、維新ふるさと館で幕末から明治維新に活躍した西郷さんなど維新の若き志士たちのドラマを見学。比島戦没者慰霊の碑

### 話し合えば争いはなくなる

滋賀県立水口東中学校1年生 神野 雄飛

僕にとって、日本の戦争は遠い昔の話であり、テレビや教科書で見たことがあるものの、少しぼんやりとした感じでした。今回研修旅行に参加させていただき、初めて知覧の特攻平和会館に行きました。そこには、知覧の特攻隊の方々の写真があり、こんなにも大勢の方が、様々な思いを抱きながら亡くなったのかと思うと、しばらくの間僕は言葉を失いました。

特攻隊の方々は若い世代の人が多く、今の時代でしたら、まだ高校生ぐらいの人たちも沢山いました。僕はまだ中学生ですが、学校のこと、テレビのこと、友人のこと、宿題は少し面倒くさいとか、大抵はそんなことを考えて過ごしています。でも、彼らは違いました。生きることに真剣でした。特攻隊の方々は、死ぬことが分かっているから

### 私が伝えたいこと

日野町立南比都佐小学校6年生 清水 らくろ

私は、なぜこの研修会に参加しようと思ったかと言うと、特攻隊員について、くわしく知りたいと思ったからです。

国のため、家族のために命をかけて、戦った特攻隊員達の年れいは、16歳から35歳と聞きました。私は、戦争が彼達の夢をなくしてしまったように感じ、胸が苦しくなりました。

私に、なぜこの研修会に参加しようと思ったかと言うと、特攻隊員について、くわしく知りたいと思ったからです。

国のため、家族のために命をかけて、戦った特攻隊員達の年れいは、16歳から35歳と聞きました。私は、戦争が彼達の夢をなくしてしまったように感じ、胸が苦しくなりました。

この研修に参加して、戦争は、二度とおこしてはならないことだと強く感じました。そして、命の尊さ、大切さを学びました。

今の日本は、平和です。食べ物も豊富ですし、争いのない国です。私は、この平和な時代の日本に生まれてとても幸せです。だから、食べ物や粗末にしたり、命をむだにせず自分の夢を目標にしっかりと生きていこうと思いました。

これから私は、この研修で気づいたこと、命の尊さ、戦争の恐ろしさ、特攻隊員として命を投げ捨て飛んで行った若者達のことを少しでもたくさんの方に伝えたいと思います。



知覧特攻平和観音堂前で研修に参加の皆さん

# おかあさんを訪ねて

木村 阿きさん (甲賀市)

## 私の一生



「取材をさせて下さい」と言っ  
て電話をかけたところ  
快く返事をいただきました

「軍隊手帳」を見せてもらいました。当初奥羽地方へ配属されたそうです。昭和20年3月に東京大空襲の後片付けに行っておられた時に、埃や諸々を吸って病気になられました。軍隊の病院に入院されていましたが、40歳で亡くなりました。阿きさんが35歳の時でした。

昭和16年生まれの長男を頭に4人の男の子を育てられました。義父母が元気だったので、一町歩の田んぼを義父と耕作されていました。義母は孫4人の内3人までは、父兄会とか学校に関する事は全て出向いてくださったとのことでした。阿きさんは毎日うつむいて一生懸命野良仕事をされていました。義母はなかなかしつかりしておられたそうです。

長男が結婚され、一番にお嫁さん(美紀子さん)に「仲良く行こうな」と約束されました。それから未亡人會という組織ができ、年に一度は旅行したり、会合に出るようになったそうです。井の中の蛙ではないけない

山川 きぬさん (守山市)

母のことば

## 「手抜きはするな」

私は昭和37年3月、滋賀大学を卒業し4月から当時の山東町立大東中学校に赴任しました。

4月1日の朝、母は赤飯を炊き私に次のように諭してくれました。「火事は土地まで焼けないがゴンタ(注)守山近辺では出来の悪い行不良の子どものこと)は家、土地まで無くしてしまおう手抜き教育はゴンタを生む。したらあかんで・・・」と。

あれから定年退職まで38年、そして教育長6年、計44年もの長い間教育に携わりました。母の言った「手

ので、外出するようになり友達も出来、楽しい日々が続いていました。今はデイサービスに週2回と地域の『おたっしや広場』等にも参加されています。昔の子どもの頃を思い出され、よろこび、という題で作文を書かれたら優秀だったそうで、東京まで送られたことをよく覚えておられました。「阿きさんはとても98歳には見えない、お若い！」言葉づかいも歯切れのよい声ではっきり聞き取れました。「阿きさんの長生きの秘訣は」と尋ねると、「好き嫌いなくおいしく食べられること。手を合わせ感謝することです。家族円満であることも秘訣です」とおっしゃいました。「素直で、やさしい、誰にでも好まれる温かな笑顔のお婆さんと仲良くしています」と美紀子さんが言っておられました。

「100歳まで生きたい」と阿きさん。「勿論100歳以上長生きできずよ」。長時間お邪魔させていただきました。お名残惜しかったです。阿きさんと握手してお別れしました。「またおしゃべりに来てください」と最後に阿きさんが言葉をかけて下さいました。(広報 北田 潤子)

抜き」はしてこなかったらどうかと反省しきりです。「子育て支援」という言葉が盛んに使われていますその陰で親がわが子の教育を他人任せにする風潮が広がってはいないかと「母の手抜きをするな」を思い出し危惧する一人です。

気丈な母も今96歳、車椅子生活です。農業一筋で苦勞しながら私を大卒まで出してくれました。母の手を見ると松の皮のような深い「シワ」が、手を握ると堅く、ゴツゴツしています。苦勞してくれたんだなあと思うと涙が出そうになります。お母さんありがとう。

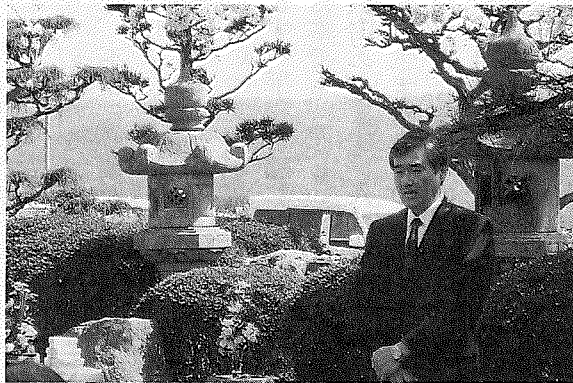
(守山市 山川 芳志郎) お元気にされていた山川きぬさんが、5月3日急逝されました。謹んで心よりご冥福をお祈りいたします。



若い頃の山川きぬさん

# ふいふいなみ

## 市長のご臨席で厳粛度アップ 学区戦没者追悼式典



河瀬学区戦没者追悼式典であいさつする  
大久保貴彦根市長

彦根市河瀬学区遺族会 会長 夏川 嘉一郎

折角ですので市長挨拶の一部をご紹介させていただきます。「日清・日露に続く先の大戦で戦没されたご先輩方の尊い犠牲の上に、今日の平和を甘受している我々。しかし、平和というものは甘受のみにあらず、その本質は単に与えられるものではない

## 熱い想いを受け継いで管理

大津市遺族連合会 小松支部 田邊 昭男

私の住む小松学区は、大津市の北の端、比良山のふもと北比良地区です。旧志賀町地域で大津市と合併して遺族会も大津市の仲間入りをしていただきました。

小松学区には、北小松・南小松・北比良と三地区あり、南小松には昔から英霊塔がありました。私の地区には永らく英霊塔がありませんでした。

当時、親会で活動しておられた柴田美代さんという方が中心となり、行政に働きかけて寄付を集めてくださるそうです。当時いろいろなるから、あとの管理が出来なくなるから建てない方がよいのではないかと「遺族の心が分かるか」と言われ、「遺族の心が分かるか」と言われて説得されて完成したと聞きました。



北比良英霊塔の清掃作業

柴田さん達の熱い想いを受け継いで、現在地区会員が一年交代で管理をしております。しかし、次世代の方々にこの想いを受け継いでもらえるか心配です。そこで、現在進められている次世代への取り組みが成功したならば、この想いもきつと受け継がれると思いい、これからも出来る限り管理して行きたいと思っております。

靖国参拝応募作品

今回も滋賀県遺族会靖国神社昇殿参拝の旅「俳句」「短歌」を募集したところ、皆さんから感動の作品を寄せていただきました。俳句・短歌選者から添削と講評を受け掲載します。今回、俳句選者を寺村しげるさん、短歌選者を磯崎啓さんにお願ひしました。(広報委員会)

俳句

寺村 しげる・選

思い馳せ集う慰霊の花の旅  
次世代に託す平和の宮若葉

(竜王町) 堀井平次郎

遺児集ひ慰霊の旅の春衣  
早春の神霊在はす昇殿へ

(米原市) 藤田 紀代

薄桜御霊なぐさめ集ひ来し  
春風や社のはとが映える朝

(竜王町) 大西 初枝

春風や見上げつ偲ぶ父鳥居  
花手向け香りとどけとお社に

(愛荘町) 前田 いそ

うららかな慰霊に詣でたる宮へ  
若葉風SLに乗り大井川

(東近江市) 井ノ口征子

春風や靖国の旅父のもと  
靖国の父を訪ねる春の旅

(高島市) 前川 正男

短歌

磯崎 啓・選

近江より はるばる靖国へ参り来ぬ  
古き梅に紅の花咲く

(甲賀市) 小林 節子

遥々と 訪ね来たりぬ靖国の  
父の御胸に抱かれんとて

手をあわせ 平和日本を祈りたり  
九段の父は優しく微笑む

(大津市) 横田千枝子

来ましたよ 社頭に立ちてお父さん  
昇殿参拝なるとうれしき

早春の 靖国参拝ときめきて  
父と出逢いて新たな涙

(高島市) 前川 正男

昇殿し 父へ近況報告と  
七十路を生きし命よろこぶ

靖国へ 参拝の旅旧友と  
ここで逢う日をしかと約せり

(米原市) 藤田 紀代

七十年 平和は続き靖国の  
父の遺影に感謝の涙す

(長浜市) 山根富士子

花つばみ 父の年こえ今もなほ  
父の胸への夢はかなわす

春近く 父にあひにとお社の  
若き父います遊就館に

(愛荘町) 前田 いそ

おぼろなる 遊就館の遺影見る  
命捧げしますらをの伴

国の為 たふれし父を惜しむ我  
よわひ重ねていにしへ思ふ

(竜王町) 大西 初枝

春近く 肅々とゆく大鳥居  
社頭に立てば尚声出でず

古希を越え 父を訪ねて靖国へ  
逝きたる母の写真を胸に

(東近江市) 井ノ口征子

俳句選者紹介

寺村 しげる (彦根市)  
元彦根俳遊館館長  
俳遊館入門講座講師

【選者講評】

今回、俳句の選をさせていた  
だくことになりました寺村しげ  
るです。俳句は親しみやすい  
文芸ですが、約束事がありま  
す。定型、(五、七、五)と季語  
を入れて読むことです。今回の  
作品にも無季のものがありま  
したので、季語を補いました。靖  
国神社参拝の旅でありましたの  
で、靖国、慰霊、社等の言葉が  
多かったのですが、出来ること  
なら、それ以外の車窓から見た

富士の姿や、都内の様子を詠ん  
でもらえる幅広い視野を持つて  
ほしかったと思いました。  
当然父を偲ぶ思いが句に表わ  
れますが、母をはじめ家族の様  
子なども素直に詠まれてはいか  
がでしょうか。

俳句は短歌の様に直接に思い  
を表現していくものですが、季  
語による故郷の景色を詠むこと  
の中にも慰霊の心は表現でき  
ると思います。身近な日常生活  
の中に仲良く助け合っている様  
子を詠み、報告することも慰霊に  
つながっていると思います。  
季語を大切に、やさしい  
言葉で作句するように心がけま  
しょう。

短歌選者紹介

磯崎 啓 (米原市)  
歌誌「青垣」選者  
しがよみうり文芸短歌選者

【選者講評】

今年には戦後70年にあたり、先  
だつて両陛下も長年念願として  
居られた、激戦地ペリリュー島  
での戦没者慰霊を果たされた。  
この度こうして靖国神社の昇  
殿参拝を果たされた方々の歌を  
拝見しても、「古希を越え父を  
訪ねて靖国へ・・・」などと歌  
われているように、当然ながら  
遺族の方も70歳を越え、しかも  
「逝きたる母の写真を胸に・・・」  
とも歌われているように、連れ  
合いの方も多く他界され、ほと

んどの方が戦没した父を慕つて  
歌われたものであることが時の  
流れを思わせて悲しい。  
ところでこうした作品群を拝  
見すると、歌としての評などと  
いうものを越えて、歌われてい  
る心情が私の心に迫って来る。  
歌はまず歌われている心が大切  
で、心の籠っていない歌は人の  
心を打つべくもない。  
そういう観点から見れば、作  
歌技術の問題は別にして、どの  
歌も若く戦場に命を落とされた  
父への切なる思いが込められて  
いないものは無い。父の御霊も  
必ずや喜び給うことだろう。

滋賀県遺族会終戦70周年記念誌発刊に伴う感想文募集について

(趣旨)

滋賀県遺族会(総務企画部会)では、終戦70周年の節目あたり、終戦70周年記念誌の発刊を計画しております。つきましては、戦後70年の想いを書き綴っていただくため、感想文を募集します。

(課題)

終戦70年の感想文：戦跡慰霊巡拝に参加したことや靖国神社参拝旅行等遺族会行事に参加したことでも結構です。

(応募用紙)

原稿用紙等原稿の形態はお任せします。

郵送またはFAXで応募下さい。

※原稿は一部手直しさせていただく場合がありますので、ご了承ください。

(字数)

本文400字～800字以内

(応募作品送付先)

下記へ郵送またはFAX送信

〒520-0801 大津市におの浜4丁目2-34(滋賀県遺族会館) 滋賀県遺族会事務局気付：総務企画委員会宛

電話 (077) 522-7227 FAX (077) 522-7233

(締め切り日)

平成27年10月末

※奮って応募してください。

滋賀県遺族会 平成 27 年度主要事業計画

時 期	事 業 名	場 所 等	時 期	事 業 名	場 所 等
平成 27 年 4 月 5 日	滋賀県護國神社春季例大祭	滋賀県護國神社	10 月 7 日	女性研修会	県立男女共同参画センター
4 月 18 日	各都市遺族会会長・女性部長会議（午前） 滋賀県遺族会青年部結成大会（午後）	滋賀県遺族会館 アハルグサイト ホテル	11 月 15 日	“終戦 70 周年記念” 滋賀県戦没者遺族大会 第二部 パネルディスカッション ～終戦 70 周年を考える～	県立文化産業交流会館
5 月 20 日	理事会、定時評議員会	滋賀県遺族会館	11 月中旬	海外戦跡慰霊巡拝	西部ニューギニア
6 月 7 日～9 日	“終戦 70 周年記念” 沖縄「近江の塔」平和 祈念戦没者追悼式、慰霊巡拝	沖縄県摩文仁の丘、 伊計島	12 月 5 日	理事会、合同会議 国会議員、県議会議員とのつどい	滋賀県遺族会館 アハルグサイト ホテル
6 月 22 日～24 日	第 54 回政府主催沖縄平和祈願リレー大行進	沖縄県糸満市	12 月 中旬	日本遺族会戦没者遺族大会と国会議員陳情運動	自由民主会館
8 月 6 日	第 34 回慰霊と平和祈願リレー行進、 各市町要望活動	滋賀県庁前→近江八幡市→東近江 市→愛荘町→滋賀県護國神社前	12 月 31 日～平成 28 年 1 月 1 日	除夜祭、元旦祭	滋賀県護國神社
8 月 13 日～15 日	第 39 回みたま祭	滋賀県護國神社	1 月 中旬	新年祈願祭	滋賀県護國神社
8 月 15 日	政府主催全国戦没者追悼式参列 合同会議	日本武道館 滋賀県護國神社	1 月 17 日～23 日	海外戦跡慰霊巡拝	フィリピン、他
8 月 26 日	平和祈念・県下戦没者追悼式	県立体育館（予定）	3 月 未定 3 月 未定	第 42 回靖國神社参拝旅行（1 班：湖南、湖西） 第 42 回靖國神社参拝旅行（2 班：湖東、湖北）	靖國神社、他
9 月 28 日～29 日	日本遺族会第 3 ブロック会議	三重県	3 月 中旬～下旬	理事会	滋賀県遺族会館
9 月 下旬	理事会、都市遺族会会長・女性部長会議	滋賀県遺族会館	3 月 下旬	次世代戦跡訪問研修事業（鹿児島）	鹿児島県知覧
9 月 下旬	皇子山陸軍墓地・滋賀県戦没者英霊塔 彼岸法要	大津市皇子山、 膳所公園	毎月 15 日	滋賀県戦没者英霊塔月並法要、正副会長会議	膳所公園内
10 月 5 日	滋賀県護國神社秋季例大祭 戦没者の妻に対し記念品贈呈	滋賀県護國神社 基準日 9 月 15 日	適 時	海外戦跡巡拝写真展	随所
			年 3 回	「遺族の友」発刊（6 月・10 月・1 月）	

滋賀県からのお知らせ

戦没者のご遺族の皆様へ  
第 10 回特別弔慰金が支給されます

○特別弔慰金の趣旨

戦後 70 周年にあたり、今日の我が国の平和と繁栄の礎となった戦没者等の尊い犠牲に思いをいたし、国として改めて弔慰の意を表するため、戦没者等のご遺族に特別弔慰金（記名国債）を支給するものです。

第 10 回特別弔慰金については、ご遺族に一層の弔慰の意を表するため、償還額を年 5 万円に増額するとともに、5 年毎に国債を交付することとしています。

○支給対象者

戦没者等の死亡当時のご遺族で平成 27 年 4 月 1 日（基準日）において、「恩給法による公務扶助料」や「戦傷病者戦没者遺族等援護法による遺族年金」等を受ける方（戦没者等の妻や父母等）がいない場合、次の順番による先順位のご遺族お一人に支給。

1. 平成 27 年 4 月 1 日までに戦傷病者戦没者遺族等援護法による弔慰金の受給権を取得した方
2. 戦没者等の子
3. 戦没者等の ① 父母 ② 孫 ③ 祖父母 ④ 兄弟姉妹  
※戦没者等の死亡当時、生計関係を有していること等の要件を満たしているかどうかにより、順番が入れ替わります。
4. 上記 1 から 3 以外の戦没者等の三親等内の親族（甥、姪等）  
※戦没者等の死亡時まで引き続き 1 年以上の生計関係を有していた方に限ります。

○支給内容 額面 25 万円、5 年償還の記名国債

○請求期間 平成 27 年 4 月 1 日から平成 30 年 4 月 2 日  
（請求期間を過ぎると第 10 回特別弔慰金を受けることが出来なくなりますので、ご注意ください。）  
※平成 27 年 6 月まで特別弔慰金を受けていた方も請求手続きが必要です。

○請求窓口 お住まいの市町の援護担当課

※なお、平成 32 年 4 月 1 日を基準日とする特別弔慰金については、平成 32 年 4 月 1 日から請求受付を開始する予定です。

※請求手続きなど詳しくは、お住まいの市町の援護担当課および滋賀県健康福祉政策課（077-528-3514）までお問い合わせください。